

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る																			
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る																			
施策	1	人流・物流を支える交通ネットワークの確立																			
担当部局		土木部 道路建設課																			
将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・人流や物流を支える高速交通ネットワークが確立され、更なる観光の振興、企業立地の促進や物流の効率化が実現している。 ・県内の主要都市間の時間短縮、定時性が確保され、地域間の交流促進や連携強化が実現している。 																			
数値目標	指標名	高速等ICまで30分で到達可能な本土面積の割合						総合戦略	○												
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)													
		73.6% (R1年度)	74.9%	74.9%	75.9%	75.9%	79.4%	79.4% (R7年度)													
	指標設定の理由	<p>交通ネットワーク構築の進捗度を把握するためには、高速等ICまで30分で到達可能な本土面積の割合を指標に設定することが適当と判断したため。 (現計画と次期計画で算出手法の一部見直しを行った。)</p>																			
	目標値の設定根拠	<p>高規格幹線道路、地域高規格道路の供用予定を考慮し、目標値を算出。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2末</th> <th>R3末</th> <th>R4末</th> <th>R5末</th> <th>R6末</th> <th>R7末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>IC30分カバー面積 (km²)</td> <td style="text-align: center;">1,872</td> <td style="text-align: center;">1,905</td> <td style="text-align: center;">1,905</td> <td style="text-align: center;">1,931</td> <td style="text-align: center;">1,931</td> <td style="text-align: center;">2,020</td> </tr> </tbody> </table> <p>※本土面積: 2,544km²</p>								R2末	R3末	R4末	R5末	R6末	R7末	IC30分カバー面積 (km ²)	1,872	1,905	1,905	1,931	1,931
	R2末	R3末	R4末	R5末	R6末	R7末															
IC30分カバー面積 (km ²)	1,872	1,905	1,905	1,931	1,931	2,020															
指標データの参照元	統計名など	道路建設課の算出指標			データ把握時期	毎年4月上旬															

基本戦略	3-2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	1	人流・物流を支える交通ネットワークの確立						
事業群	1	航空路線の拡充と長崎空港の運用時間延長						
担当部局	地域振興部				担当課	交通政策課		
数値目標	指標名	長崎空港での運航可能な時間					総合戦略に記載	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
	(変更前)	15時間 (R1年度)	17時間	19時間	19時間	24時間	/	24時間 (R6年度)
	(変更後)	/	/	/	15時間	15時間	17時間	17時間 (R7年度)
	目標値変更の理由	当初は、航空需要の創出が見込まれるMICE施設開業などに合わせて運用時間を段階的に延長し、IR開業までに24時間化の達成を目標としていたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、航空需要が大きく減少したことにより、目標値の変更を行うもの。						
	変更後の目標値の設定根拠	R4年3月に運用が開始されたりリモート管制を活用し、R5年度からR6年度にかけて、運用時間外に臨時便の実証運航を実施。需要予測や課題検証を行いながら、R7年度に運用時間を2時間延長。(現行:7時~22時⇒6時~23時)その後も引き続き24時間化の実現を目指して取り組む。						
指標データの参照元	統計名など	長崎空港の運用時間			データ把握時期	毎年4月		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	1	人流・物流を支える交通ネットワークの確立						
事業群	2	高規格幹線道路・地域高規格道路の整備による高速交通ネットワークの構築						
担当部局		土木部 道路建設課						
数値目標	指標名	高規格幹線道路・地域高規格道路の供用率					総合戦略	-
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		58.0% (R2年度)	59.2%	60.6%	62.1%	63.6%	64.2%	64.2% (R7年度)
	指標設定の理由	高速交通ネットワークの進捗度を把握するためには、高規格幹線道路、地域高規格道路の供用率が適当と判断したため。						
	目標値の設定根拠	高規格幹線道路である九州横断自動車道や西九州自動車道、地域高規格道路である西彼杵道路や長崎南北幹線道路、島原道路、長崎南環状線の路線指定延長に対する、供用延長の割合を目標値とし、各工区の事業進捗や今後の予定等を考慮し、各年度の目標値を設定した。						
指標データの参照元	統計名など	道路建設課の算出指標			データ把握時期	毎年4月上旬		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	1	人流・物流を支える交通ネットワークの確立						
事業群	3	生活に密着した道路の整備による道路ネットワークの拡充						
担当部局		土木部 道路建設課						
数値目標	指標名	国県道の供用延長（累計）					総合戦略	-
	目標値	基準値（基準年）	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標（目標年）
		0km（R2年度）	5.2km	13.7km	18.9km	25.3km	37.6km	37.6km（R7年度）
	指標設定の理由	道路の整備が5年間でどの程度進捗したかを把握するには供用延長が適当と判断したため。						
	目標値の設定根拠	令和2年現在で計画している工区を抽出し、各年度ごとに供用延長目標を定め、5か年の目標値としている。						
指標データの参照元	統計名など	道路建設課の算出指標			データ把握時期	毎年4月上旬		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	1	人流・物流を支える交通ネットワークの確立						
事業群	4	国内外との交流の拠点となる港の整備						
担当部局		土木部 港湾課						
数値目標	指標名	国内外との交流の拠点となる港湾施設の整備					総合戦略	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		0施設 (R1年度)	0施設	2施設	3施設	3施設	4施設	4施設 (R7年度)
	指標設定の理由	クルーズ客船や定期航路による外国人観光客等の増大に対応した港湾を整備することで、受入環境が改善され、地域への経済波及効果が拡大されることから、整備する港湾施設の数を目標にすることが適当と判断した。						
	目標値の設定根拠	クルーズ客船による外国人観光客や定期航路による国内観光客の受入拠点となっており、その増大に対応した受入環境の改善が必要な港湾施設の数を目標とした。						
指標データの参照元	統計名など	整備実績			データ把握時期	毎年度末		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	2	九州新幹線西九州ルート ¹ の整備と開業効果の拡大						
担当部局		地域振興部 新幹線対策課						
将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・九州新幹線西九州ルート(武雄温泉～長崎)の開業により、交流人口の拡大等が図られ、地域が活性化している。 ・新鳥栖～武雄温泉間のフル規格による認可及び工事に着手されている。 						
数値目標	指標名	九州新幹線西九州ルート（武雄温泉～長崎）の開業					総合戦略	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		—	—	開業				開業 (R4年度)
	指標設定の理由	平成28年3月の「新幹線(西九州ルート)の開業のあり方に係る合意」(六者合意)において、「武雄温泉～長崎間の施設が完成する平成34年度に、当該区間にフル規格車両を投入し、博多～武雄温泉間を走行する在来線特急と武雄温泉駅で乗り換えを行うことにより開業する」とされているため。						
目標値の設定根拠	平成28年3月の六者合意により、武雄温泉～長崎間の令和4年度開業を目指す。							
指標データの参照元	統計名など	新幹線(西九州ルート)の開業のあり方に係る合意」(六者合意)			データ把握時期	—		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	2	九州新幹線西九州ルート of 整備と開業効果の拡大						
事業群	1	九州新幹線西九州ルート of 整備促進						
担当部局		地域振興部 新幹線対策課、土木部 新幹線事業対策室						
数値目標	指標名	九州新幹線西九州ルート（武雄温泉～長崎）の開業					総合戦略	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		—	—	開業				開業 (R4年度)
	指標設定の理由	平成28年3月の「新幹線(西九州ルート)の開業のあり方に係る合意」(六者合意)において、「武雄温泉～長崎間の施設が完成する平成34年度に、当該区間にフル規格車両を投入し、博多～武雄温泉間を走行する在来線特急と武雄温泉駅で乗り換えを行うことにより開業する。」とされているため。						
	目標値の設定根拠	平成28年3月の六者合意により、武雄温泉・長崎間の令和4年度開業を目指す。						
指標データの参照元	統計名など	新幹線(西九州ルート)の開業のあり方に係る合意(六者合意)			データ把握時期	—		

基本戦略	3-2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	2	九州新幹線西九州ルートへの整備と開業効果の拡大						
事業群	2	新幹線開業に向けたアクションプランの推進						
担当部局	地域振興部			担当課	新幹線対策課			
数値目標	指標名	JRによる府県相互間旅客輸送人員(関西・中国・福岡県～長崎県)					総合戦略に記載	○
	目標値	基準値(基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(目標年)
	(変更前)	894千人(R3年度)	—	基準値+15%	基準値+15%	基準値+15%	基準値+15%	基準値+15%(R7年度)
	(変更後)				2,305千人	2,305千人	2,305千人	2,305千人(R7年度)
	目標値変更の理由	新型コロナウイルス感染症の影響や社会経済状況の変化のため						
	変更後の目標値の設定根拠	<p>基準値である、R3の府県相互間旅客輸送人員(関西・中国・福岡県～長崎県)実績が「893,975(人)」と、現在の回復状況と大きく乖離があることから、目標値を上方修正するもの。コロナ禍前の(H30年度)の府県相互間旅客輸送人員(関西・中国・福岡県～長崎県)実績に、現時点での鉄道旅客輸送業の回復状況(※1)と西九州新幹線の開業効果(※2)を加味したものを数値目標として、それを維持する。</p> <p>※1 第3次産業活動指数(経済産業省)により90%とする。 ※2 鹿児島ルートの部分開業前後のJRによる府県相互間旅客輸送人員(関西・中国・鹿児島県)の実績を参考に、時間短縮効果の違いを考慮して15%増とする。</p> <p>【目標値】 2,305千人 ○積算 H30実績×コロナからの回復状況×新幹線開業効果 =2,228千人(※)×0.9×1.15=2,305千人</p> <p>(※)算出根拠 H30年度のJRによる府県相互間旅客輸送人員(関西・中国・福岡県～長崎県) ○内訳 ①関西(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)～長崎県 H30年度 224,748人 ②中国(鳥取、島根、岡山、広島、山口)～長崎県 H30年度 145,459人 ③福岡県～長崎県 H30年度 1,858,420人 ①～③ 合計 2,228,627人 (千人未満切り捨て)</p>						
指標データの参照元	統計名など	旅客地域流動調査		データ把握時期	翌年度末			

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	3	持続可能で魅力ある都市・地域づくり						
担当部局	企画部、地域振興部、土木部							
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・IR整備により、成長・発展の著しいアジア地域を中心に世界中から今までにない人の流れを生み出すことで、新型コロナウイルス感染症収束後の観光活性化にも大きな役割を果たし、交流人口の拡大による観光・地域経済の活性化、良質な雇用の創出の好循環が生まれている。 ・計画的な都市機能の配置により、にぎわいがあり持続可能な都市が形成されている。 ・景観教育により地域の歴史・文化・営みを知ることで、魅力的な景観・まちなみが継承され、地元への愛着が育まれている。 ・若者から高齢者まで幅広い年齢層の県民や来訪者が長崎を「楽しみ」「憩う」ことができる都市環境となっている。 ・県庁舎跡地における様々な交流の場や憩いの空間の整備により、歴史を活かした新たな賑わいが生まれている。 							
数値目標	指標名	主要な都市づくりプロジェクトの着手件数（累計）					総合戦略	—
	目標値	基準値 （基準年）	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 （目標年）
		0件 （R1年度）	4件	4件	4件	4件	6件	6件 （R7年度）
	指標設定の理由	<p>県内2大都市である長崎市及び佐世保市における都市づくりプロジェクトに着目したもの。これらを推進し都市の活性化を図ることによって、その波及効果を県内に広げ、交流人口の拡大、地域経済の活性化に繋げることで、持続可能で魅力ある都市づくり、地域づくりに寄与できるため</p>						
目標値の設定根拠	<p>IR区域の認定、県庁舎跡地の賑わいに向けた先行整備、及び民間都市再生事業計画の策定数等主たる事業群の数値目標と連動させている。</p>							
指標データの参照元	統計名など	実績値による			データ把握時期	毎年3月末		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	3	持続可能で魅力ある都市・地域づくり						
事業群	1	特定複合観光施設(IR)区域の整備						
担当部局		企画部 IR推進課						
数値目標	指標名	国による特定複合観光施設（IR）区域の認定					総合戦略	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		—		認定				認定 (R4年度)
	指標設定の理由	本県への特定複合観光施設(IR)整備のためには、国から全国3か所を上限とする区域認定を得る必要があるため。						
	目標値の設定根拠	<p>以下のことを総合的に勘案して目標値(時期)を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国はIRの開業時期を「2020年代半ばから後半」と想定している。 ・令和2年10月9日に観光庁が公表した「特定複合観光施設区域整備法第九条第十項の期間を定める政令(仮称)の案」に関する意見募集(パブリックコメント)の中で、令和3年1月4日から7月30日までとされていた区域整備計画の認定申請期間を令和3年10月1日から令和4年4月28日までとする変更案が示された。 						
指標データの参照元	統計名など	「特定複合観光施設区域整備法第九条第十項の期間を定める政令(仮称)の案」に関する意見募集(R2.10.9～11.7)			データ把握時期	2020年末頃(国による基本方針の決定) ※新聞報道等による見込み		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	3	持続可能で魅力ある都市・地域づくり						
事業群	2	長崎市中央部のグランドデザイン						
担当部局		土木部 都市政策課						
数値目標	指標名	長崎都心地域における民間都市再生事業計画の認定数（累計）					総合戦略	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		0件 (R1年度)	2件	2件	2件	2件	4件	4件 (R7年度)
	指標設定の理由	<p>都市再生特別措置法に基づく都市再生緊急整備地域内では、まちづくりの方向性である地域整備方針に沿った一定規模の民間都市開発は、国から計画の認定を受けることで、開発に伴い税制や金融融資など優遇措置を受けることが可能となる。</p> <p>一定規模以上の都市開発については民間開発者と行政で協議を進め、地域整備方針に沿った長崎の魅力を高める都市開発計画となるよう協議を進めることから、計画の認定を増やすことが、長崎のまちづくりにつながるため、計画認定数を指標として採用した。</p>						
	目標値の設定根拠	今後、長崎で想定される一定規模以上の民間都市開発事業の事業件数を設定。						
指標データの参照元	統計名など	—			データ把握時期	随時(国が民間都市再生事業計画を認定)		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	3	持続可能で魅力ある都市・地域づくり						
事業群	3	県庁舎跡地整備の推進						
担当部局		地域振興部 県庁舎跡地活用室						
数値目標	指標名	県庁舎跡地の整備（賑わいづくりに向けた先行整備）					総合戦略	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		—	供用開始	—	—	—		供用開始 (R3年度以降)
	指標設定の理由	県庁舎跡地における先行整備は、令和3年度頃となる見込みであるため。						
	目標値の設定根拠	同上						
指標データの参照元	統計名など	供用開始イベントの開催			データ把握時期	供用開始時点		

基本戦略	3-2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る																																						
施策	3	持続可能で魅力ある都市・地域づくり																																						
事業群	3	県庁舎跡地整備の推進																																						
担当部局	地域振興部			担当課	県庁舎跡地活用室																																			
数値目標	指標名 (変更前)	県庁舎跡地の整備（賑わいづくりに向けた先行整備）					総合戦略 に記載	○																																
	指標名 (変更後)	県庁舎跡地の整備（基本設計）					総合戦略 に記載	○																																
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)																																
	(変更前)	—	供用開始	/	/	/	/	供用開始 (R3年度以降)																																
	(変更後)	—	/	/	—	着手	着手	着手 (R6年度以降)																																
	指標変更 の理由	R3年度に当初設定した目標(供用開始)を達成したことにより、指標を修正する。																																						
	変更後の 目標値の 設定根拠	<p>基本構想「8.今後の進め方」の全体ロードマップでは、令和6年度以降に「設計・整備」としている。 令和6年度に暫定供用の利用状況等を踏まえて機能配置等の整備内容を決定し仕様書を作成し、令和7年度の基本設計に着手見込みであるため。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>4～5年度</th> <th>6年度以降</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体ロードマップ</td> <td>基本構想</td> <td>整地など 利用状況 等を検証</td> <td>設計・整備</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">オープンスペースの利用状況等を検証のうえ、設計・整備を実施</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県庁舎跡地</td> <td>石垣 上 ・広場 ・情報発信（歴史等） ・交流支援</td> <td>一部活用</td> <td>整地など 利用状況 等を検証</td> <td>設計・整備</td> </tr> <tr> <td>石垣 下 ・旧第三別館</td> <td colspan="3">見える化検討・設計・整備（石垣改修）</td> </tr> <tr> <td>・第一別館跡地 ・第二別館跡地</td> <td colspan="3">方向性の整理・設計・整備 ※利活用する場合</td> </tr> <tr> <td>県警本部跡地 (交流支援)</td> <td>一部活用</td> <td>整地など 利用状況 等を検証</td> <td>設計・整備 (階段・バスベイ等)</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">(民間開発による設計・整備を想定)</td> </tr> </tbody> </table>								令和3年度	4～5年度	6年度以降	全体ロードマップ	基本構想	整地など 利用状況 等を検証	設計・整備		オープンスペースの利用状況等を検証のうえ、設計・整備を実施			県庁舎跡地	石垣 上 ・広場 ・情報発信（歴史等） ・交流支援	一部活用	整地など 利用状況 等を検証	設計・整備	石垣 下 ・旧第三別館	見える化検討・設計・整備（石垣改修）			・第一別館跡地 ・第二別館跡地	方向性の整理・設計・整備 ※利活用する場合			県警本部跡地 (交流支援)	一部活用	整地など 利用状況 等を検証	設計・整備 (階段・バスベイ等)		(民間開発による設計・整備を想定)	
	令和3年度	4～5年度	6年度以降																																					
全体ロードマップ	基本構想	整地など 利用状況 等を検証	設計・整備																																					
	オープンスペースの利用状況等を検証のうえ、設計・整備を実施																																							
県庁舎跡地	石垣 上 ・広場 ・情報発信（歴史等） ・交流支援	一部活用	整地など 利用状況 等を検証	設計・整備																																				
	石垣 下 ・旧第三別館	見える化検討・設計・整備（石垣改修）																																						
	・第一別館跡地 ・第二別館跡地	方向性の整理・設計・整備 ※利活用する場合																																						
県警本部跡地 (交流支援)	一部活用	整地など 利用状況 等を検証	設計・整備 (階段・バスベイ等)																																					
	(民間開発による設計・整備を想定)																																							
指標データの参照元	統計名 など	基本構想に基づく、県庁舎跡地の設計・整備への着手			データ 把握 時期	着手開始時点																																		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る							
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る							
施策	3	持続可能で魅力ある都市・地域づくり							
事業群	4	IRの整備や新幹線の開業等を見据えた大村湾周辺地域の活性化							
担当部局		企画部 政策企画課							
数値目標	指標名	MaaS等新たなモビリティサービスの導入						総合戦略	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)	
		—	—	—	導入	/	/	導入 (R5年度)	
	指標設定の理由	<p>最終的な目標は、本県を訪れた方に利便性が高くストレスのない移動の実現を図ることで、観光地域づくりを後押しすること(交流人口の拡大)にあるが、MaaS等新たなモビリティサービスの導入には一定の準備期間が必要であることから、当面の目標として、「サービスの導入」を指標として設定した。</p>							
	目標値の設定根拠	<p>目標年について、MaaS等新たなモビリティサービスの導入を図るには、地域の交通事業者に参加いただき、実証実験を積み重ね、結果を検証しながら段階的に実装していく必要があると考えられるため、R2～R4を実証期間と位置付けた。 ※想定される準備期間 R2:準備期間(実証実験に向けた体制整備)、一部実証開始 R3～4:実証実験(実証結果の検証)・段階的な実装</p>							
指標データの参照元	統計名など	—			データ把握時期	随時			

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	3	持続可能で魅力ある都市・地域づくり						
事業群	5	市町と連携した景観まちづくりの推進						
担当部局		土木部 都市政策課						
数値目標	指標名	広域エリアにおける県及び市町の連携による景観形成ガイドラインの策定（累計）					総合戦略	○
	目標値	基準値 （基準年）	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 （目標年）
		0件 （R1年度）	1件	2件	2件	2件	2件	2件 （R7年度）
	指標設定の理由	<p>行政区を跨る広域での良好な景観を形成するためには、市町の同意を得て広域景観形成推進事業を推進することが必要である。</p> <p>よって、各地域における景観形成ガイドラインを定め、ガイドラインに沿った整備や規制を行なうことにより、一体的に地域の魅力を高めることが、各市町のまちづくりにつながるため、ガイドラインの策定数を指標として採用した。</p>						
	目標値の設定根拠	今後、五島地域及び環大村湾地域で想定されるガイドラインの策定件数を設定。						
指標データの参照元	統計名など	—			データ把握時期	随時（県及び市町が計画を作成）		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る							
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る							
施策	3	持続可能で魅力ある都市・地域づくり							
事業群	6	都市機能の集約化による効率的な市街地の形成							
担当部局		土木部 都市政策課							
数値目標	指標名	立地適正化計画を作成した市町数（累計）						総合戦略	○
	目標値	基準値 （基準年）	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 （目標年）	
		2市 （R1年度）	3市町	4市町	5市町	6市町	7市町	7市町 （R7年度）	
	指標設定の理由	都市のコンパクト化の実施主体は基礎自治体（市町）であり、当該取り組みの具体的な方針である「立地適正化計画」を作成・公表することが、人口減少下における持続可能で魅力ある都市・地域づくりをすすめるうえで特に有効であるため、「立地適正化計画を作成した市町数」を指標として設定した。							
	目標値の設定根拠	立地適正化計画は自治体における全庁的な取り組みであり、自治体における方針決定や住民の合意形成などに要する期間を考慮し、毎年、1以上の自治体が計画を作成するよう、県が働きかけを行うものとして設定した。							
指標データの参照元	統計名など	— （市町において、計画が作成されたときは広く公表される）			データ把握時期	随時			

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る							
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る							
施策	4	しまや半島など地域活性化の推進							
将来像		離島・半島などが有する特有の資源を活かしながら、しまや半島などの地域活力が維持・活性化している。							
担当部局		地域振興部 地域づくり推進課							
数値目標	指標名	過疎地域等の人口減少率（社会減）						総合戦略	-
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)	
		3.0% (H27～R1年減少率)	0.5%	0.9%	1.3%	1.7%	2.1%	2.1%未満 (R3～R7年減少率)	
	指標設定の理由	過疎地域等の活性化のためには、地域課題の解決や、地方創生交付金等を活用した交流人口の拡大、移住・定住施策等の取組を推進しながら、人口の社会減抑制を目指す必要がある。							
	目標値の設定根拠	<p>社会増減数については、長崎県長期人口ビジョンにおいて目標としている2040年に社会異動の均衡を達成するために必要な人口推計と、長崎県特定有人国境離島地域の地域社会維持に関する計画に基づき算定。</p> <p>※過疎地域等とは、全部過疎地域(全部離島地域を含む)または全部半島地域の12市町。 (島原市、平戸市、松浦市、対馬市、壱岐市、五島市、西海市、雲仙市、南島原市、小値賀町、佐々町、新上五島町)</p> <p>・基準値はH27.1.1～R1.12.31、目標値はR3.1.1～R7.12.31</p> <p>(目標値の算定について)</p> <p>○しまの人口減少(社会減) 長崎県有人国境離島地域の地域社会維持に関する計画に基づき目標値を設定 ・R3～R7の社会減数(目標) 1,528人…① ・R2.1.1現在の人口 109,800人…②</p> <p>○半島の人口減少(社会減) 長崎県長期人口ビジョンに基づき目標値を設定 ・R3～R7の社会減数(目標) 5,529人…③ ・R2.1.1現在の人口 219,856人…④</p> <p>○過疎地域等の人口減少(社会減) ・R3～R7の社会減数(目標) ①+③=7,057人…⑤ ・R2.1.1現在の人口 ②+④=329,656人…⑥ ・R3～R7年減少率 ⑤/⑥×100=2.1%</p>							
指標データの参照元	統計名など	長崎県異動人口調査			データ把握時期	毎年2月頃			

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る											
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る											
施策	4	しまや半島など地域活性化の推進											
事業群	1	しまの資源を活かした地域活性化											
担当部局		地域振興部 地域づくり推進課											
数値目標	指標名	雇用機会拡充事業による新規雇用者数						総合戦略	-				
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)					
		183人 (R1年度)	200人	200人	200人	200人	200人	200人 (R7年度)					
	指標設定の理由	<p>しまの活性化のためには、良質で安定した雇用の場の創出が不可欠であるため、県では、H29年4月施行の「有人国境離島法」に基づく国の交付金を活用し、関係市町と一体となって、新たな雇用の場の創出に取り組んでいる。</p> <p>しかし、年々、雇用計画数が減少傾向にあるなど、新規雇用者の確保が厳しくなっていることから、毎年、同水準の新規雇用者を確保し続けることで、しまの人口の社会減の改善の原動力としていく必要がある。</p>											
目標値の設定根拠	<p>平成29年度に策定した「長崎県特定有人国境離島地域の地域社会の維持に関する計画」に準拠し、新規雇用者数の目標値を設定。</p> <p>(参考) 「長崎県特定有人国境離島地域の地域社会の維持に関する計画」(H29～R3年度)の数値目標:雇用機会拡充事業等による新雇用者延数</p> <table border="1"> <tr> <td>当初現況値</td> <td>中間目標値 (R1年度)</td> <td>最終目標値 (R3年度)</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>900人</td> <td>1,400人</td> </tr> </table> <p>※各年度の新規雇用者目標値 H29年度:400人、H30～R3年度:各250人 (上記の目標値の内訳:雇用機会拡充事業による新規雇用者及び、その他の新規雇用者(各年度50人)の合計)</p>							当初現況値	中間目標値 (R1年度)	最終目標値 (R3年度)	-	900人	1,400人
当初現況値	中間目標値 (R1年度)	最終目標値 (R3年度)											
-	900人	1,400人											
指標データの参照元	統計名など	市町へ照会			データ把握時期	毎年4月							

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	4	しまや半島など地域活性化の推進						
事業群	2	地域の特色を活かした地域発のプロジェクトの推進						
担当部局		地域振興部 地域づくり推進課						
数値目標	指標名	ながさき旅ネット内「半島のページ」のページビュー（PV）数					総合戦略	—
	目標値 単年)	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		6,814PV (R1年度)	7,020PV	7,125PV	7,232PV	7,340PV	7,450PV	7,450PV (R7年度)
	指標設定の理由	地域内外の交流を活発化させるため、地域資源を活用した特徴ある地域づくりや、地域の魅力の効果的な情報発信を行うことで、認知度向上を目指す必要がある。						
	目標値の 設定根拠	R1年度の「半島のページ」PV数(6,814)を基準とし、県の観光消費額の目標値を参考に、毎年度の伸び率1.5%を目指す。						
指標 データの 参照元	統計名 など	長崎県観光連盟 ながさき旅ネットアクセス集計数			データ 把握 時期	毎年4月頃		

基本戦略	3-2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	4	しまや半島など地域活性化の推進						
事業群	3	九州各県等との連携による取組推進						
担当部局	企画部				担当課	政策調整課		
数値目標	指標名	九州・山口地域の移住者数の増加					総合戦略に記載	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
	(変更前)	8,755人 (H30年度)	11,600人	12,900人	13,400人	14,000人		14,000人 (R6年度)
	(変更後)				15,200人	15,800人		15,800人 (R6年度)
	目標値変更の理由	・令和4年度の実績値が15,244人であり、最終目標値の14,000人に到達していることに加え、各県の総合計画の改訂等により目標値の上方修正を行う。						
	変更後の目標値の設定根拠	九州・山口各県が一体となって、九州・山口地域の特徴や女性視点での情報発信を積極的に行い、九州・山口地域への移住者数について、各県がそれぞれの総合戦略の目標等を勘案し設定した移住者目標の集計により、H30年度末時点の8,755人から、R6年度末時点で15,800人を目指す。						
指標データの参照元	統計名など	移住者数実績調査			データ把握時期	6月		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	4	しまや半島など地域活性化の推進						
事業群	4	広域連携の推進による県北地域の活性化						
担当部局		企画部 政策企画課						
数値目標	指標名	連携した取組に基づいて事業化した数（継続）					総合戦略	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		2件 (R1年度)	3件	3件	3件	3件	3件	3件 (R7年度)
	指標設定の理由	平成27年8月に佐賀県と4事項で連携協定を締結したが、佐賀県との連携を推進していくためには、連携協定に基づいて、具体的な取り組みを事業化していくことが必要不可欠であるため。						
目標値の設定根拠	各連携事項の具体的な内容については、両県の企画部局、関係部局による協議体制を整え、今後検討することとしている。県北地域は、佐賀県と広いエリアで県境を共有しており、松浦鉄道や陶磁器文化など、連携して取り組むことのできる共通の資源を有しており、県北地域に係るもので3事業程度の事業化を目指すこととしている。 ただし、現時点において佐賀県と連携推進会議を開催できておらず、新規事業を創出することが困難な状態にあるため、随時数値目標については見直しを行うこととする。							
指標データの参照元	統計名など	なし	データ把握時期	随時				

基本戦略	3-2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	4	しまや半島など地域活性化の推進						
事業群	5	地域振興のための自然資源の活用						
担当部局	県民生活環境部			担当課	自然環境課			
数値目標	指標名	自然資源を活用した利用環境整備箇所数（累計）					総合戦略に記載	-
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
	(変更前)	—	2箇所	4箇所	6箇所	8箇所	10箇所	10箇所 (R7年度)
	(変更後)				1箇所	1箇所	3箇所	3箇所 (R7年度)
	目標値変更の理由	<p>R3年度に国立公園の利用拠点である八万地獄において、豪雨による大規模な災害が発生し、予算的にもマンパワー的にもこれまでにない大規模な対策工事を実施する必要が生じた。対策工事はR6年度までかかる予定であり、それまでは地元との調整を踏まえ、地域の復興のための最優先事項である災害復旧対策事業に注力しなければならなくなった。利用環境施設の整備として実施する国立公園雲仙上質化プロジェクト推進事業の再開はR7年度以降となったため、目標値を変更するものである。</p> <p>なお、R6年度までは災害発生前に設計業務を発注し、工事を完了させることができた箇所が1箇所あるため、その1箇所を計上している。</p>						
	変更後の目標値の設定根拠	<p>R7年度から災害発生前に実施していた国立公園雲仙利用拠点上質化プロジェクト推進事業を再開し、当初設定していた毎年2箇所の整備を行い、R11年度までに当初目標としていた10箇所を達成する。</p>						
指標データの参照元	統計名など	—			データ把握時期	—		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る							
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る							
施策	5	特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化							
担当部局		文化観光国際部 文化振興課							
将来像		本県の特徴ある歴史や文化芸術による地域活性化やスポーツによる地域のにぎわいづくりが行われている。							
数値目標	指標名	文化芸術イベント等に参加（鑑賞を含む）した県民の割合						総合戦略	-
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)	
		26% (R1年度)	34%	38%	42%	46%	50%	50% (R7年度)	
	指標設定の理由	県内各地の多彩な歴史と豊かな自然に恵まれた特色ある資源を活かし、文化芸術による人材育成や地域づくりを推進する必要がある、そのためには「文化芸術イベント等に参加（鑑賞を含む）した県民の割合」を高めることが適当であると判断したため。							
	目標値の設定根拠	R1年度の実績値26%を基準値として、5年後の国民文化祭の開催に向けて、各市町・民間と協働しつつ地域活性化を推進することを通じて、県民の2人に1人が文化的活動に触れることを目指す。							
指標データの参照元	統計名など	長崎県の取組に関する県民意識アンケート調査			データ把握時期	毎年6月			

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	5	特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化						
担当部局		文化観光国際部 スポーツ振興課						
将来像		本県の特徴ある歴史や文化芸術による地域活性化やスポーツによる地域のにぎわいづくりが行われている。						
数値目標	指標名	スポーツコンベンション参加者数（九州大会以上）					総合戦略	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		14.6万人 (H30年度)	16.0万人	16.5万人	17.0万人	17.5万人	18.0万人	18.0万人 (R7年度)
	指標設定の理由	県外からも人が集うスポーツコンベンションの誘致・受入を促進することにより、交流人口の拡大を図る。						
	目標値の設定根拠	<p>【対象】 九州大会規模以上のスポーツコンベンションへの参加者数</p> <p>【設定根拠】 H30年度実績値を基準とし、毎年の伸び率3%(現在の総合計画で掲げる目標値の伸び率を準用)、R7年度に18万人の参加者を目指す。</p> <p>※ジャパネットホールディングスによる長崎スタジアムシティプロジェクトの整備動向も踏まえ、適当な時期に目標値見直しを検討</p>						
指標データの参照元	統計名など	スポーツコンベンション参加者数及びスポーツ合宿受入実績調査(市町への照会)			データ把握時期	毎年6月		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る							
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る							
施策	5	特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化							
事業群	1	歴史や文化芸術による地域活性化							
担当部局		文化観光国際部 文化振興課							
数値目標	指標名	地域と協働して実施するイベントへの参加者数						総合戦略	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)	
		13,290人 (H30年度)	15,100人	15,500人	15,900人	16,300人	16,700人	16,700人 (R7年度)	
	指標設定の理由	本県の未来を担う若者の新たな発想に基づく文化芸術による地域づくりを推進し、文化芸術人材の育成を図るため、地域実行委員会を実施主体とする「長崎しまの国際芸術祭」(離島地域)、若者を対象としたワークショップ等の取組により「ながさき愛」を高め、交流人口の拡大・人口定着を図る「若者アート創造プロジェクト」(本土・半島地域)を開催する。そのためには多くの県内外の参加者(観覧者)が不可欠であるため。							
	目標値の設定根拠	H30の基準値は事業群評価調書取組実績を記載、R2以降については開催地域の拡大、開催内容の充実等を図り、最終年度を基準値の約25%増を目指す。							
指標データの参照元	統計名など	文化振興課による調査			データ把握時期	毎年5月下旬			

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る																																					
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る																																					
施策	5	特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化																																					
事業群	2	伝統文化の継承と文化財の保存・活用																																					
担当部局		教育庁 学芸文化課																																					
数値目標	指標名	国や県の指定等となった文化財の数					総合戦略	-																															
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)																															
		683件 (R1年度)	691件	695件	699件	703件	707件	707件 (R7年度)																															
	指標設定の理由	<p>チャレンジ2020では、年8件の追加指定等を目指す目標設定としていたが、近年指定・登録の候補数が少なくなり、過去5年間の平均実績が年4件ペースでの指定等となっていることから目標値を見直したい。</p>																																					
	目標値の設定根拠	<p>過去5年間の実数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>①指定等</th> <th>②解除等</th> <th>①-②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H27</td><td style="text-align: center;">7</td><td style="text-align: center;">5</td><td style="text-align: center;">2</td></tr> <tr><td>H28</td><td style="text-align: center;">8</td><td style="text-align: center;">5</td><td style="text-align: center;">3</td></tr> <tr><td>H29</td><td style="text-align: center;">6</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: center;">6</td></tr> <tr><td>H30</td><td style="text-align: center;">8</td><td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;">6</td></tr> <tr><td>H31</td><td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">1</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: center;">31</td><td style="text-align: center;">13</td><td style="text-align: center;">18</td></tr> <tr><td>平均</td><td style="text-align: center;">6.2</td><td style="text-align: center;">2.6</td><td style="text-align: center;">3.6</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">⇒ 4件</p> <p>最終目標を707件とし、基準年であるR1年度から毎年4件ずつ増加することを目標とする。</p>								①指定等	②解除等	①-②	H27	7	5	2	H28	8	5	3	H29	6	0	6	H30	8	2	6	H31	2	1	1	合計	31	13	18	平均	6.2	2.6
	①指定等	②解除等	①-②																																				
H27	7	5	2																																				
H28	8	5	3																																				
H29	6	0	6																																				
H30	8	2	6																																				
H31	2	1	1																																				
合計	31	13	18																																				
平均	6.2	2.6	3.6																																				
指標データの参照元	統計名など	-	データ把握時期	毎年4月上旬																																			

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る							
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る							
施策	5	特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化							
事業群	3	スポーツによる地域活性化							
担当部局		文化観光国際部 スポーツ振興課							
数値目標	指標名	スポーツ合宿参加者数						総合戦略	○
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)	
		5,910人 (H30年度)	6,648人	6,914人	7,190人	7,478人	7,777人	7,777人 (R7年度)	
	指標設定の理由	地域外からのスポーツ合宿の誘致・受入を促進することにより、交流人口の拡大及び域内消費の創出を図る。							
	目標値の設定根拠	<p>【対象】 県外の高校生以上(離島地域では島外の高校生以上)によるスポーツ合宿の参加者数</p> <p>【設定根拠】 H30年度実績値を基準とし、毎年伸び率4%(スポーツ合宿の先進他県を目標とし、当該県での過去5年間の平均の年間伸び率(2%)の倍の伸び率)を目指す。</p>							
指標データの参照元	統計名など	スポーツコンベンション参加者数及びスポーツ合宿受入実績調査(市町への照会)	データ把握時期	毎年6月					

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る																																	
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る																																	
施策	5	特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化																																	
事業群	4	競技スポーツの推進																																	
担当部局		教育庁 体育保健課																																	
数値目標	指標名	国民体育大会の順位					総合戦略	-																											
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)																											
		26位 (R1年度)	20位台	20位台	20位台	20位台 前半	20位台 前半	20位台前半 (R7年度)																											
	指標設定の理由	<p>国際大会や全国大会等で本県選手の活躍は、県民に大きな感動と活力を与え、次世代の選手たちの大きな希望となる。</p> <p>長崎がんばらんば国体(H26)において構築された競技団体の一貫指導システムを継続・発展させ、競技力の低下を招くことのないよう地域に支えられた一貫性のある競技力向上対策を推進する。</p> <p>国民体育大会はスポーツ基本法に基づいて開催される、国内最大のスポーツの祭典であり、正式競技37競技で実施され、成年男女、少年男女が競う結果の成績は、各県の競技スポーツ水準を見るうえで大きな指標となりうると判断されるため。</p>																																	
	目標値の設定根拠	<p>H26長崎国体では、総合成績(天皇杯順位)1位を獲得することができた。H26長崎国体を除く過去10年(H21～R1)の成績をみると、最高10位(H25)で最低41位(H30)、平均23.2位である。また、H26長崎国体前の5年間(H21～H25)の平均は19.2位、長崎国体後の5年間(H27～R1)は27.2位である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26長崎国体前・・・20位(H21)、31位(H22)、15位(H23)、20位(H24)、10位(H25) ・H26長崎国体後・・・17位(H27)、28位(H28)、24位(H29)、41位(H30)、26位(R1) <p>先催県のうち地方開催のH20大分県、H21新潟県、H23山口県の国体開催後の5年間の成績は以下のとおりである。</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td>(1年後)</td> <td>(2年後)</td> <td>(3年後)</td> <td>(4年後)</td> <td>(5年後)</td> <td>(平均)</td> </tr> <tr> <td>・H20大分県</td> <td>14位</td> <td>18位</td> <td>24位</td> <td>19位</td> <td>22位</td> <td>19.4位</td> </tr> <tr> <td>・H21新潟県</td> <td>15位</td> <td>33位</td> <td>22位</td> <td>25位</td> <td>40位</td> <td>27位</td> </tr> <tr> <td>・H23山口県</td> <td>15位</td> <td>32位</td> <td>22位</td> <td>28位</td> <td>29位</td> <td>25.2位</td> </tr> </table> <p>以上のことから、目標値を「20位台前半」とした。</p>								(1年後)	(2年後)	(3年後)	(4年後)	(5年後)	(平均)	・H20大分県	14位	18位	24位	19位	22位	19.4位	・H21新潟県	15位	33位	22位	25位	40位	27位	・H23山口県	15位	32位	22位	28位	29位
	(1年後)	(2年後)	(3年後)	(4年後)	(5年後)	(平均)																													
・H20大分県	14位	18位	24位	19位	22位	19.4位																													
・H21新潟県	15位	33位	22位	25位	40位	27位																													
・H23山口県	15位	32位	22位	28位	29位	25.2位																													
指標データの参照元	統計名など	国民体育大会総合成績(天皇杯順位)			データ把握時期	毎年10月中旬																													

【事業群の新設】

(R5改訂)

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	5	特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化						
事業群	5	ながさきピース文化祭2025の開催						
担当部局名		文化観光国際部 文化振興・世界遺産課						
事業群の内容		<p>令和7年度のながさきピース文化祭2025は本県の魅力を国内外に発信する絶好の機会であることから、市町と一体となって文化芸術の振興や地域活性化につながる長崎県らしい文化祭の開催を目指し、文化を通じた「人づくり、基盤づくり、地域づくり」の仕組みを将来に継承していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町主体の分野別フェスティバルや地域の特色あるプログラムの実施 ・文化芸術活動を行う団体等に対する支援の充実 ・文化を担う人材の育成及び文化団体の体制強化、学校や地域との連携 ・地域に伝わる伝統芸能や歴史、食などの文化観光資源を活用した、国内外からの誘客促進 ・文化芸術活動を通じた国際交流の拡大及び平和への願いの発信 ・障害のある人もない人も一緒に参加し交流できる芸術文化事業の実施 						
数値目標	指標名	ながさきピース文化祭2025 総参加者数					総合戦略	-
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		—	/	/			190万人	190万人 (R7年度)
	指標設定の理由	令和7年度開催「ながさきピース文化祭2025」にかかる事業群・指標を新たに設定						
目標値の設定根拠	過去の開催県の平均総参加者数である約188万人を上回る目標として設定							
指標データの参照元	統計名など	過去の開催県公表資料			データ把握時期			

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る						
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る						
施策	6	国際交流と平和発信の推進						
将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な国際交流が活発に行われている本県の取組が広く認知され、訪れた外国人や生活している外国人と県民の交流が拡大している。 ・被爆の実相が正しく理解され、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現への流れが拡大している。 ・本県での国際交流などを通し、異なる文化や価値観等を尊重する中で平和の意識が醸成され、長崎から絶えず平和の発信がされている。 						
担当部局		文化観光国際部 国際課						
数値目標	指標名	国際交流及び平和発信事業への県民等参加者数					総合戦略	-
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)
		4,682人 (H30年度)	5,345人	6,008人	6,671人	7,334人	8,000人	8,000人 (R7年度)
	指標設定の理由	<p>地域での国際交流の促進、及び核兵器廃絶と世界恒久平和を実現するため、幅広い分野の国際交流事業、そして核兵器の悲惨さと非人道性の理解を深める平和発信事業を実施し、それら事業への県民等参加者数を目標数値とすることが適当と判断した。</p>						
目標値の設定根拠	<p>平成30年度の(県(国際課)が関与した)国際交流事業及び平和発信事業への県民等参加者数が4,682人であったことから、毎年の参加者数を663人増加させ、最終年度の令和7年度は8,000人を目指す。</p>							
指標データの参照元	統計名など	国際課による調査			データ把握時期	毎年5月上旬		

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る							
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る							
施策	6	国際交流と平和発信の推進							
事業群	1	国際交流の推進							
担当部局		文化観光国際部 国際課							
数値目標	指標名	県民等が参加した国際交流事業の開催件数						総合戦略	-
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)	
		23回 (H30年度)	26回	29回	32回	35回	38回	38回 (R7年度)	
	指標設定の理由	多様な文化への県民の理解を深め、地域での国際交流の促進を図るため、県民等が参加した(県(国際課)が関与した)国際交流事業の開催件数を指標として設定することが適当と判断した。							
	目標値の設定根拠	県(国際課)が関与した平成30年度の県民等参加の国際交流事業の開催件数は23件であったことから、毎年度、県民等参加の国際交流事業の開催件数を3件増加させ、最終年度の令和7年度は38件を目指す。							
指標データの参照元	統計名など	国際課による調査			データ把握時期	毎年5月上旬			

3つの柱	3	夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る							
基本戦略	2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る							
施策	6	国際交流と平和発信の推進							
事業群	2	核兵器や戦争のない平和な世界の実現に向けた情報発信							
担当部局		文化観光国際部 国際課							
数値目標	指標名	県民等が参加した平和発信事業の開催件数						総合戦略	-
	目標値	基準値 (基準年)	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標 (目標年)	
		14回 (H30年度)	16回	18回	20回	22回	24回	24回 (R7年度)	
	指標設定の理由	核兵器廃絶と世界恒久平和を実現するため、核兵器の悲惨さと非人道性の理解を深める平和発信事業を実施し、その開催件数を目標数値とすることが適当と判断した。							
	目標値の設定根拠	①長崎平和大学、②被爆体験講話(県外大学・県内市町)、③海外原爆展など、平和発信事業の開催件数 とする。							
指標データの参照元	統計名など	国際課による調査			データ把握時期	毎年5月上旬			